

# 知・技の創造

ものづくり大学発

▷126◁

ダイバーシティ(多様性)

という言葉が広く用いられています。その本質は互いの価値観の違いを認めることで

す。森林も多面的な機能を有し、木材生産、水源涵養、地球環境保全、保健・レクリエーションなどを担い、人々の暮らしを支えています。

日本の国土の約7割は森林ですが、多くの人は残り約3割の地域で生活しています。

埼玉県では南西部の飯能地域や北西部の秩父地域に森林が広がる一方、主に南東部にか

けて街が集中しています。近年は街路樹も減少し、都市部で暮らす人々が森林を意識する機会は多くありません。し

かし、観葉植物や花を飾り、木製家具を取り入れることで心身がリラックスすることが

## 戸田 都生男

技能工芸学部 建設学科  
木造建築・環境デザイン研究室

教授

# 多能・多彩な森林・木材

多くの研究で示されています。最近ではDIYで木製什器をつくるニーズもありま

す。つまり、人は多彩な植物

や木製品を通して日常に小さな森林環境を取り込み、豊かさを感じているのです。

埼玉県土の約3割が森林でした。川上村は秩父と同様に

す。戦後80年を経て、人工林の約8割が伐採期に達しました。昨年には「全国植樹祭」が開催され、彩の国として県産木材の普及と森林資源の循環を図る「活樹」が発信され

ました。同年、本学でも地域木材・森林共生研究センターを設立し、今年2月には渋沢

MIJで「埼玉県産木材イノ

たい」願いが込められていま

す。職人の地位向上を目指す

学が「木匠塾」に参加し、本学開学の契機となった「職人

学共同で開催しました。私は瀬戸内の海辺で育ち、

海のない埼玉に住んで11年目

です。秩父を訪れた際、大学

時代にも木造建築を学んだ奈良

時代にも木造建築を学んだ奈良

時代にも木造建築を学んだ奈良

時代にも木造建築を学んだ奈良

時代にも木造建築を学んだ奈良

時代にも木造建築を学んだ奈良

私は木造住宅分野での「新たな

多能工の育成」をテーマに、

国の科学研究費を受けて研究

を進めています。新たな多能

設計・施工へと続くサプライ

チェイン(川上・川中・川下)

として捉えられます。さらに、

山から海へ流れる養分は力キ

などの生育を支え、私たちの

食卓にもつながります。

「多」の字は「タ」を二つ

重ねて一日の終わりが積み重

なることを表すともいわれま

す。多量という意味だけでなく

の林学博士・本多静六が、川く、

適材適所、足を知る精

神も想起させます。多世代に

郎から林業を学び、多くの公

渡り育まれた木材で新たな多

能工がつける建築は、樹齢を

超える長い年月の中で、人々

の多彩な暮らしを記憶する器

とされています。木材も水を合

とさせていただきます。

とだ・つきお 1975年生まれ。大阪芸術大学建築学

科卒業。設計事務所などを経て、京都府立大学大学院博士後

期課程博士(学術)、一級建築士。2016年4月より木造建

築・環境デザイン研究室。25年4月より地域木材・森林共生

研究センター長。専門は木造住宅設計・環境心理行動学。



職人不足が懸念される現在